

通常砂防事業事前評価調書

路線・河川等名	あさひがおかがわ 旭ヶ丘川	事業名	通常砂防事業	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所(区間)	綾部市 ^{いでんちよう} 位田町 地内		
事業概	目的	旭ヶ丘川は綾部市南部の位田町に位置し、人家51戸及び市道を保全対象とする危険溪流である。流域内には、土石流対策施設が整備されておらず、溪流直下に人家が密集していることから、地元からの要望も強く、砂防堰堤を整備し、土砂災害から地域の安全を確保する必要がある。			
	内容	砂防堰堤：N=1基 事業費：1.6億円			
	上位計画等	明日の京都 社会資本総合整備計画(防災・安全交付金)			
	スケジュール	着手年度：平成30年度 完成目標：平成34年度			
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	○保全対象には、人家51戸及び地域の生活道路である市道610mが含まれ、土石流が発生した場合、地域住民に与える影響は大きい。			
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	○土石流等の土砂災害から下流に存在する人家等を保全する事業であり、投資効果は大きい。(B/C=25.2)			
事業の効率性等	コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	○砂防えん堤を効率的に配置し、施設の規模を抑制することで、地形の改変を避け、自然環境への負荷低減に努める。 ○現地発生土を他工事に積極的に流用調整することで他工事を含めた総事業費のコスト縮減を図る。			
総合評価	本事業は、土砂災害からの人命保護及び地域の安全確保の観点から、新規事業着手の必要がある。				

あさひがおかがわ

京都府 由良川水系 旭ヶ丘川 通常砂防事業

きょうとふ あやべし いでんちょう あさひがおか
京都府 綾部市 位田町 旭ヶ丘

○事業目的

旭ヶ丘川は綾部市位田町旭ヶ丘に位置し、保全対象として**人家51戸**が存在する流域面積0.024km²の土石流危険渓流である。土石流発生時には甚大な被害を受ける可能性があり、平成27年6月23日に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域にも指定されている。このため、早期に堰堤工を完成させることにより地域住民の安心安全に寄与する。

全体計画	H29までの実績	H30計画
事業期間：H30～H34 事業概要：砂防堰堤工 1基 渓流保全工 1式 事業費：164百万円	なし	測量・土質調査 事業費：30百万円 詳細設計 1式 事業費：5百万円

◎事業効果

○堰堤工及び渓流保全工を整備することにより、**人家51戸**及び市道610mの土石流による土砂災害の防止を図ります。



『^わ環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成30年4月20日		
		作成部署	建設交通部砂防課		
事業名	旭ヶ丘川通常砂防事業	地区名	綾部市位田町旭ヶ丘 地内		
概算事業費	1.6億円	事業期間	平成30年度～平成34年度		
事業概要	砂防えん堤1基				
目指すべき環境像	事業箇所周辺は住宅地となっており、残された自然環境や景観の保全が重要であり、事業実施に当たっては、自然環境に与える影響を可能な限り小さくするよう配慮する。 また、土砂災害の発生を防止する事業であり、地域住民の安心・安全を確保すると共に、動植物の生育環境と長期的な景観の保全により、地域の生活環境の保全に寄与する。				
関連する公共事業	なし				
評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価	
	主要な評価の視点				選定要否
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)	溪流が荒廃しており、溪床には不安定な土砂が堆積しているため、荒廃の進行を防止し、それに伴う溪流周辺の地形の保全を図る必要がある。	砂防えん堤工及び溪流保全工を整備することで、土砂災害の原因となる溪流の大規模な土砂移動を抑止し、現地地形の保全を図り、生態系の維持に寄与する。		
	地形・地質			○	3
	物質循環(土砂移動)			○	4
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系			○	3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン	溪流下流に人家等が位置しているため、工事期間中は工事車両による騒音・振動を抑制する必要がある。 また、建設発生材を極力リサイクルする必要がある。	工事実施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。 また、建設発生材は当該工事や近隣の公共工事や民間工事と調整し、再利用に努める。		
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動			○	3
	廃棄物・リサイクル			○	3
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	当該溪流周辺は人家が多数存在する地域であるが、豊かな自然環境や景観に恵まれていることから、植生等の環境の改変を最小限に止める必要がある。	材料の選定においては、地域の自然景観との調和を図るよう努める。 地域住民に対して行う工事説明会等は、防災に対する意識向上を図り、地域住民との協働につながるよう検討する。	3	
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働			○	4
その他					
外部評価					